

永山在兼が結んだ 友好の架け橋



姉妹都市 日置市との 30年

本町の姉妹都市・鹿児島県日置市
姉妹都市となったのは1983(昭和58)年
今年で30周年を迎えました
30周年を記念した物産交流展が
8月31日・9月1日に日置市で
9月7日・8日に本町で行われたほか
9月6日には記念式典が川湯温泉で行われ
友好を温め続けてきた30年を祝いました
弟子屈町と日置市の交流は
どのようにして始まったのでしょうか



恵まれた自然資源の中で
歴史を刻んできた日置市

日置市は鹿児島県の薩摩半島中
央部に位置する市です。2005
(平成17)年5月1日に、日置郡の4
町、伊集院町、東市来町、日吉町、吹
上町が合併して誕生しました。
人口およそ5万人。県庁所在地の
鹿児島市と隣接し、同市のベッドタ
ウンとしても発展しています。
平均気温16℃~17℃という温暖な
気候で、特産品はお茶やイチゴ、焼
酎など。また東シナ海に面してお
り、天然塩やちりめんじゃこの生産
も盛んです。
薩摩焼の歴史とも深い関わりが
ある地域で、現在でも旧東市来町美
山地区などに窯元が開かれ、陶器の
まちとしても知られています。

永山氏の功績がきっかけ
1千800キロを超えた絆

弟子屈町と日置市の距離は直線
で1千800キロ。北海道と九州、遠
く離れたこの2つの町と市が姉妹
都市となるきっかけは、同市出身の
故永山在兼氏(写真)の存在でした。



永山氏は1
889(明治
22)年、鹿児島
県東市来町(現
日置市)出身。

東京帝国大学現
東京大学土木工
学科を卒業し、
1915(大正
4)年に北海道庁
に入庁します。
遠く北海道を目
指したのは、同
郷の先輩・吉利
智宏氏が北海道開拓に尽くしたこ
とを知って感銘を受け、自分も北海
道開拓に尽くすことを決意したか
らといえます。

永山氏は1918(大正7)年、釧
路土木出張所長になり、以後12年間
にわたり、道東地区の開拓のため
多くの道路新設・改良に尽力します。
中でも国道241号、本町と阿寒湖
畔を結ぶ約40キロの阿寒横断道路開
削工事は大変な難工事でしたが、1
930(昭和5)年、見事に完成させ
ました。横断道路の完成を受け、1
934(昭和9)年には阿寒国立公園
に指定されるなど、道東観光発展の
基礎を築く上で、永山氏が果たした
功績はとても大きなものでした。地
域の人々は後に、この道路を「永山
道路」・永山氏を「阿寒国立公園の父」
と呼ぶようになったといわれています。
この縁で1983(昭和58)年、本
町と東市来町(当時)との姉妹町盟約
が結ばれ、4町合併により同町が日置
市となった2005年以降も、姉妹
都市盟約として継承されています。



当時の阿寒横断道路開発(100周年記念誌より)

姉妹都市盟約締結30周年によせて(式典のしおりより)

弟子屈町長 徳永 哲雄



北と南、気候風土が違う両地区を、昭和58年に故永山在兼氏のご縁で旧東市来町と1本の糸で結んでいただいて以来、また、平成17年に周辺4町で合併後の日置市となられてからも姉妹都市盟約を継続締結し、本年度で30周年を無事迎えられましたこと、誠にうれしく思います。

この30年の間、多くの方に弟子屈町を訪問していただきました。夏の時期は、灼熱の九州からクーラー不要の北海道の涼しさを、そして冬は氷点下の極寒の厳しさを味わっていただき、両地の気温差は30度を超えることもありました。本町の歴史は九州と比べればまだまだ浅いものではありませんが、本町が自慢できる太古の姿をとどめた雄大な自然環境を感じていただけたのではないかと考えております。

また、私たちが訪問する際には、言葉では表しつくせないほどの歓迎をいつも受けております。これからも日置市から来られた方々の記憶にいつまでも残るよう、さらには異文化を通じて両町がさらに発展して行けるようなお付き合いを続けてまいりたいと考えております。

30周年の節目にあたり、宮路高光市長をはじめ、関係各位に敬意を表するとともに、日置市ならびに市民のこれからのますますのご繁栄をご祈念申し上げ、姉妹都市盟約30周年記念の言葉とさせていただきます。

鹿児島県日置市長 宮路 高光



昭和の初め、故 永山在兼氏がこの北海道道東の国道241号、阿寒湖から弟子屈町に至るおよそ40キロの難工事を完成させ、後に国立公園の指定や弟子屈町の観光振興に寄与されたというご縁で、貴町と姉妹盟約を締結してから30年。

北国の弟子屈町と南国の旧東市来町をこのような形で結び付けてくださった先人に対し、あらためて深甚なる敬意を表するとともに心から感謝を申し上げたいと思います。

これまでの30年を振り返ってみますと、中学生による親善交流に始まり、貴町の記念事業への参加や市民のツアーによる訪問、また最近ではそれぞれの特産品の相互販売など、さまざまな分野で交流を続けてまいりました。

私も北と南の地で、気候や風土などそれぞれ違いはありますが、それぞれの地で、住民の皆さんと手を携へ共生と協働による地域力の向上を目指しながら、これまで以上に交流を深め、次の世代に新たな夢を引き継ぐために努力してまいりたいと思います。

本日の記念式典の開催にご尽力賜りました、徳永哲雄町長様をはじめ、関係各位に敬意を表し心から厚く感謝を申し上げますとともに、弟子屈町のますますのご発展をご祈念申し上げ、姉妹都市盟約30周年記念によせる言葉とさせていただきます。



中学生交流事業で本町を訪れた日置市の中学生(昨年8月)



永山在兼顕彰の碑建立記念式典(町史より)



種市佐改氏



9月6日に行われた記念式典では記念の絵画の交換も



本町で行われた物産交流展



日置市で行われた物産交流展

日置市から贈られた繁殖用肉牛「かねはる」とその子牛

両町の交流に大きく貢献
観光の第一人者・種市氏

姉妹都市盟約のきっかけとなったのは永山在兼氏ですが、その経緯を語る上で欠かせない方が本町にいました。初代弟子屈図書館長であった、故種市佐改氏です。

種市氏は1923(大正12)年、釧路市出身。14歳で国鉄(現JR)に入庁し、旅客・観光を担当してきました。1960(昭和35)年、東北北海道観光連絡協議会に参画、「タンチョウ」「流水」「白鳥」の「三白観光」を提唱するなど、後に観光の第一人者として知られていきます。1974(昭和49)年から釧路観光連盟事務局長、1985(昭和60)年から釧路圏周観光文化センター資料室長、1989(平成元年)からは弟子屈図書館長を務め、1991(平成3)年に67歳で亡くなっています。

種市氏は、釧路観光連盟事務局長就任時に「阿寒国立公園40周年記念誌」の編集に携わり、阿寒国立公園指定に大きく貢献した阿寒横断道路と永山氏について調べ始めます。調査を進める中で、永山氏の故郷・東市来町と連絡を取るようになり、それがきっかけとなって1979(昭和54)年、鹿児島県の地元紙・南日本新聞で永山氏の道東道路開発の業績が紹介されました。

これらを経て、本町が東市来町とは本町で、それぞれ記念式典が行われ、友好を確かめ合いながら、相互の発展を誓いました。

東市来町が周辺3町との合併により日置市となった2005(平成17)年には、姉妹都市盟約継承締結式が日置市で行われ、今後も変わらぬ



本町と日置市との姉妹都市盟約締結30周年記念式典が9月6日、川湯温泉で行われました。式典には、徳永町長をはじめ日置市の小園義徳副市長や同市議会の宇田榮議長など約60人が出席し、節目を祝いました。

記念品の交換では、本町からは水墨画家・香月氏(本町在住)によるシマフクロウと摩周湖を描いた水墨画が、日置市からは同市在住の水墨画家・芝龍郎氏による江口浜の蓬菜(ほうらい)を描いた水墨画がそれぞれ贈られました。

式典の後は交流会が行われ、アトラクションとして川湯ばやし披露されるなど、和やかなひとときを過ごしました。また、30周年を記念した物産交流展が、8月31日・9月1日に日置市で、9月7・8の両日には本町で開催されました。本町からは摩周メロンやトウモロコシ、牛乳、乳製品に加え、近海の海産物が、日置市からは薩摩焼酎やさつまあげ、サツマイモ、ちりめんじゃこなどの特産品が出品され、多くの人でにぎわいました。

の交流を正式に希望し、本格的な両町のやり取りが始まります。翌1980(昭和55)年、阿寒国立公園広域観光協議会が、釧路地区に「永山在兼顕彰の碑」を建立。永山氏のご家族や東市来町長、同町議会議長出席のもと、除幕式が行われました。

さまざまな交流を重ねて理解と友好を深めた日々。こうして、本町が東市来町と姉妹町盟約を結んだのが1983(昭和58)年。10月には本町で、11月には東市来町でそれぞれ調印式が行われました。以来、さまざまな交流事業を行っていきます。

代表的なのが1990(平成2)年から始まった中学生交流事業で、現在まで2年おきに行われています。本町の中学生が日置市(旧東市来町)を、日置市の中学生が本町を訪れ、文化や風土の違いを感じながら、相互理解を深めています。

また近年は、互いのまちを行き来しての物産交流も実施。さらに今年5月には、昨年の鹿児島県畜産共進会でグラントチャンピオンに輝いた繁殖用肉牛が日置市から本町に贈られるなど、畜産業での交流も行われています。

姉妹町盟約締結10周年を迎えた1993(平成5)年には東市来町で、20周年を迎えた2003(平成15)年

30周年に感慨もひとしお
今後も変わらぬ友好誓う

交流を確認。現在に至ります。そして今年、姉妹都市盟約30周年を迎えました。

